

市民フォト

No.10・2012年春号

ふくしま

夢

通信

■ 福島の元気

■ またこらんしょ

■ 福島の農業を支える人々

■ 福島市復興への道筋

福島の



1



3



2



5



4



6

- 1 福島わらじまつり
- 2 ふくしま花火大会
- 3 絆とうろう (土湯温泉)
- 4 プロジェクト FUKUSHIMA (詩のスクール)
- 5 プロジェクト FUKUSHIMA (四季の里)
- 6 飯坂けんか祭り
- 7 プロジェクト FUKUSHIMA (詩のスクール)
- 8 飯坂温泉ファイヤー祭
- 9 県ご当地グルメサミット in 福島
- 10 光のしずく号 (光のしずくプロジェクト)
- 11 福島わらじまつり
- 12 ふくしま総文 (全国高等学校総合文化祭)
- 13 福島秋祭り連山車

11 12 撮影：平成 23 年度市民カメラマン 穴戸良之さん



8



7

元氣



9



11



10

「福島人の胸の火を、
何があっても絶やしてはならない」
詩人 和合亮一氏作「ふたたびの春に」から
子どもからお年寄りまで、皆が安心して暮らせる
ふるさとを、美しい元気な福島市を取り戻す。
復興元年 復興へ向けた希望の年となるよう願
いを入れて、一つ一つの事業を着実に進めます。
除染をはじめとした復興プロジェクトに取り組
み、再興、さらには以前よりも飛躍する街を目指
します。
私たちは、前を向いて進みます。



13



12

また さらさらしよ

『花もみもある』ふくしま市へ

やわらかな風と一緒に漂う甘い花の香り。

長く厳しい冬の間に降り積もった雪も解け出し、うれしい春がやってきました。

今号では、「またさらんしよ」また来なくなる『花もみもある』ふくしま市へ」をテーマに、広く福島市の魅力を発信している福島市観光コンシェルジュの皆さんに、飛び切りの春観光を伺いました。福島市を知り尽くしたコンシェルジュお薦めの観光ポイントに出掛ければ、いつもの何倍も春を満喫できますよ。

問／観光課

☎52553722

福島市観光コンシェルジュとは??

それぞれの分野で活躍されている皆さんを、1年間の養成講座を経て、「福島市観光コンシェルジュ」に認定。現在22人が、観光まちづくり集団として、福島市のお薦め情報をブログなどで発信しています。



撮影：H23年度市民カメラマン 穴戸良之さん

春になると紫に煙る吾妻山の山肌を縫うように走る磐梯吾妻スカイラインは、日本の道100選にも選ばれた山岳道路です。「草木もない荒涼とした風景と豊かな緑の風景が混在する、めくるめく大パノラマ。自然に対する畏怖すら感じられる、そこが大きい

福島市観光コンシェルジュ
(市旅館ホテル協同組合理事)

はないのりよし
花井 徳良さん



冬と春を一度に楽しめる雪の回廊 不動沢橋周辺は眺め抜群



な魅力だと思っています」と花井さん。
毎年4月に出現する「雪の回廊」「市街地は春らんまん。でも、山道を登ると、雪の壁に囲まれて、高さ4mにもなる冬に逆戻り。冬と春を一度に楽しめます」。市街地が一望できる不動沢橋周辺も眺望のポイントです。
そして、花井さんのもう一つのお薦めは温泉。「ドライブの後に、ゆったり温泉に浸かると、疲

れた体が癒やされていくのが分かるんですよ」
福島に来たら、ぜひ足を延ばして磐梯吾妻スカイラインへ。運がよければ、眼下に雲海の絶景も見られますよ。

▲雪の回廊

4月8日

磐梯吾妻スカイライン

無料再開通

【再開通式】

●とき / 4月8日(日)

午前10時

●ところ / 高湯ゲート

※昨年に引き続き全車種無料で通行可。通行期間は11月15日(木)までです。





福島市観光コンシェルジュ
(NPO法人ふくしま
バリアフリーツアーセンター長)

さとう ゆかり
佐藤 由香利 さん



▲思いの滝



「私が春を感じるののは空の色。明るいブルーの日が多くなると、ついドライブに出掛けたくなりますね」と語る佐藤さん。
そんな佐藤さんが雪解けを待つ、毎年出掛ける「女沼」は、土湯温泉から車で10分の所にあります。緑の木々の中にぽっかりと開けた空間は、存在自体が神秘的で、まるで空を映す鏡のよう。「静かな水面を見てみると、心が穏やかになっていくのを実感できます」

るので歩きやすいですね。車から降りずに深呼吸したり、小鳥のさえずりや近くにある「思いの滝」の音に耳を澄ますだけでも、深い森の春を満喫できますよ」
また、女沼の手前にあるツツジの群生地「つつじ山公園」もお薦め。小高い丘一面に咲くツツジと、女沼の組み合わせが楽しめる見頃は5月中旬です。



▲つつじ山公園から眺める女沼

VIEW SPOT 3
女沼

空を映す鏡のように静かな女沼
ツツジの群生地
「つつじ山公園」もお薦め

ボランティアガイド「ふくしま花案内人」として、福島市内の花の魅力を伝えてきた大宮さん。飯坂温泉街の郊外に平成19年オープンした「花ももの里」は年々その魅力を増している、大宮さんが太鼓判を押すスポットです。

福島市観光コンシェルジュ
(ふくしま花案内人)

おおみや みえこ
大宮 三枝子 さん



5月上旬にかけて、世界中から集めたハナモモ約40種類が咲き誇ります。「さら」に上って、館ノ山の頂上の駐車場付近は眺めも良く、八重桜越しに市の中央にある信夫山も見えます」
また、近くには、約300本のハナモモを市民が植えた「花もも公園」もあります。
「花ももの里に行くなら、ローカル線の福島交通飯坂線を使うの



▲福島交通飯坂線を走る鉄道ファンにとっては懐かしの7000系電車

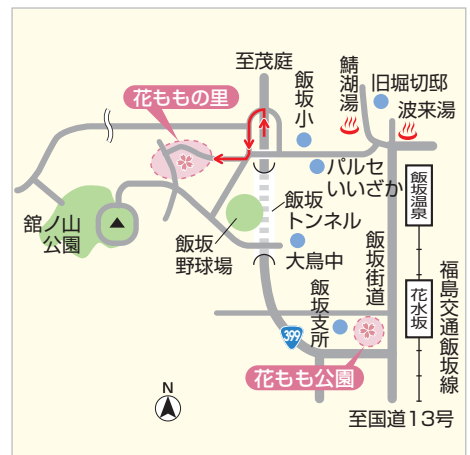
も風情があつていいですよ。泉駅の先で見える松川の桜並木と、医王寺駅を過ぎた辺りから眼下に広がるサクランボ畑は、車窓から見える極上の春スポットです」。車窓から楽しむ春もぜひ満喫してください。



見逃したくない花ももの里 ローカル線から眺める“春”も格別



▲飯坂温泉街も眺められる花ももの里



農業後継者

鈴木直人さん

市農業後継者連絡協議会 監事
月の輪農園 代表

農業従事者としての喜び、
苦しみはみんな同じ。
自己研鑽しながら
安全な食べ物を作り続けます。

福島 の 農業 を 支える人々

東日本大震災と原子力災害によって

福島市の農業は、かつてない状況に直面しています。

自然の恵みに感謝しながら仕事を続けてきた

農家の皆さんは、先の見えない不安を解決するため、

さまざまなチャレンジをしながら困難を乗り越えようとしています。

「未来は、自分の中にある」と熱く語る、

福島市の農業を支える人々をご紹介します。

手応えを感じ始めたところに
起きた大震災。悔しさ募る一年

4年前に祖父母が営んでいた農業
を継いだ鈴木直人さん。「父は会社

員ですので、農業を継ぐのは自分だ
と思っていました。祖母が亡くなっ
たことから本格的に始めました”。

主な生産物は、ハウス栽培のキュウ
リ。「大型ハウスの管理は、1人1
棟が目安。私と祖父と2棟のハウス
で品質のよいキュウリ作りに励んで



います」。鈴木さんが作るキュウリは、味がよいと評判で、中には、直接買いに来られる方もいるそうです。「自分なりに手応えを感じ始めていたところによもやの震災。原発事故による風評被害も重なり、昨年は悔しさでいっぱいでした」。値段も下がり、ハウス内の暖房費も捻出できないような状態になったこともありました。

新規就農者が新たな仲間へ 志高く共に「安心」を届けたい

現在、鈴木さんは、JA新ふくしまや卸売市場の勉強会に参加したり、自らも情報収集に努めながら安全・安心な野菜作りに励んでいます。「キュウリは、放射能の影響を受けにくい野菜のようで、ずっと不検出。ハウスの中には、もともと放射能がありませんでしたので、今は、外から持ち込まないように管理を徹底しています」

若い農業後継者の知識・技術の研究、連携、交流を目的に活動している市農業後継者連絡協議会の存在も鈴木さんの大きな励みになっているそうです。「果樹や野菜など、生産



物は違ってても農業従事者としての喜び、苦しみは同じです。昨年は、困難を分かち合い、励まし合いながら農業を続けてきました」



2012年春、鈴木さんたちの会に新規就農者約20人程度が入会します。「みんな農業を一生の仕事と思っている大切な仲間です。志高く、安全な食べ物作りを続けていきたいと思っています」

若い力が広く根を張り、花を咲かせ、実を結ぶ。一步一步力強く前に進もうとする気持ちが福島農業を支えます。

▼鈴木さんの暮らす東部地区は
キュウリの一大産地で多くの農家が生産

▲祖父の直平さんとおいしいキュウリ作りに
取り組む

果樹農家

紺野 繁勝 さん

オウトウ生産研究会 会長

困難を乗り越えるための
探究心は常に持ち続ける。
自分たちの技術を
磨いていくのも大切なこと



除染、風評被害との闘い
立ちはだかる困難

福島県のサクランボの収穫量は、
全国第6位。県内では、福島市で特
に生産が盛んです。「品質のよい、
お客さまに喜ばれるサクランボ作り
を目指して、日々研鑽を積んできま
したが、われわれの抱える問題とし
ては、以前から生産農家の高齢化が

ありました。加えて昨年は原発事故
による風評被害との闘い、放射能の
除染作業など、思ってもみなかった
困難が立ちはだかりました」

艱難辛苦をバネにする
福島の安心はサクランボから

3月、福島市内の果樹農家の皆さ
んは、剪定作業を済ませた後、国が
示した基準ののっとり樹体の高圧洗



浄などの除染作業を行い、その後、
普段通り消毒などの作業に入りま
す。「時間がいくらあっても足りま
せん。剪定した枝も徹底した後始末
が求められます。そこが片付かない
と除染作業を始められません。とに
かく今は、みんなで協力しながら進
めていくしかないと思っています」

「なぜ、サクランボが大事かと言え
ば、果物の収穫時期を見れば分か
ります。サクランボ、モモ、ナシ、リンゴ
と続きますが、サクランボが一番早
く結果が出ます。だからきちんと育
てなければならぬのです」
存亡の危機にある農業を救うた
め、「アンテナを高くして安全・安
心の果物作りを実践していきたい」
と語る紺野さん。おいしいサクラン
ボ、今年も待っています。

※アイデンティティー…… 帰属意識、特定のある人・
ものであること



花き卸業

はしもと えいいち
橋本 栄市 さん

市中央卸売市場花き部
株式会社 福島花き 代表取締役社長

生産者と花屋さんを守り、 消費者の皆さんに 心を癒やす花を届けるのが 私たちの役目

震災から2週間後にセリを再開 花屋さんたちの熱気に感動

「1日も早くセリを再開してほしい」という花屋さんの声に、震災から2週間後の3月25日にセリを再開した橋本さん。「その時の花屋さんたちの熱気は生産者にも届けたいくらいの盛り上がりでした。やるべきことをやれば、結果は付いてきます」

9年前、福島市内の2つの地方卸売市場が業務統合し、「株式会社福島花き」が誕生。それぞれの市場の特性を生かし、物流と情報の拠点としてさらなる高みを目指すチャレンジは、順調に進んでいました。

「小さな困難は付きもの。いつも私たちの胸にあるのは、生産者と産地、花屋さんのこと。大震災のときも。ただし、今回の困難は桁

が違いました」。徐々に被害状況が明らかになると、生産地の被害の甚大さに言葉を無くしたという橋本さん。「生産者を守り、花屋さんを守り、皆さんに心を癒やす花を届けるのが私たちの役目。もう迷いませんでした」

使う土に配慮するなど生産者の 努力を出荷会議でスピーチ

昨年、橋本さんは、北海道・東北や関東ブロックの花き出荷会議で、福島市の現状を話す貴重な機会に恵まれました。「土壌管理に万全を尽くし、特に土に配慮しながら育てていることなど、生産者の皆さんが今できる限りの努力をしていることを伝えました」

大震災から1年。再び巡ってきた春。橋本さんは、生産農家の皆さん

の作付けが順調に進むように祈りながら元気に毎日セリ台に立っています。「私自身、皆さんが手塩にかけて育てた花にいつも元気をもらってきました。これからも皆さんと花のために最大限の努力を続けていくだけです」。橋本さんの情熱に込めるように、福島の花たちがつぼみを膨らませ始めました。間もなく春本番です。



◀市場では今日も活気あるセリが行われる



復興への道筋

その時

2011年3月
未曾有の大震災

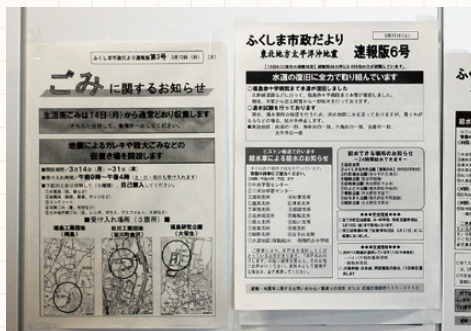


地震により、市内全域で水道が断水、あさひ台団地には崖崩れによる避難指示を発令。



各地で停電が発生、市民は、余震が続く中で不安な日々を過ごしました。市庁舎にも多くの市民が詰め掛けました。

福島市に甚大な被害をもたらした東日本大震災から1年。本市では、安全で安心な暮らしを取り戻し、一日も早い復興のため、さまざまな取り組みを行っています。



混乱の中、福島市は市政だより速報版を毎日発行し、避難所などに配布、ホームページでも情報を随時発信。その他、市と協定を結ぶFMポコでは、臨時災害放送を24時間流し続けました。

平成23年3月11日 巨大地震発生

午後2時46分、マグニチュード9.0の巨大地震発生。福島市でも震度6弱を観測。日常が一変した苦しい生活の中、寄せられた全国からの温かい支援。県民同士の強い絆が大きな力に。

3月 ● 市内各地に甚大な被害発生

11日午後2時50分、市災害対策本部設置
● 市内各所に避難所開設。住宅に被害を受けた市民と、福島第一原子力発電所の事故により相双地域から避難を余儀なくされた8千人を超える方が避難所生活
● 給水所の設置と給水車による給水、水道の復旧作業開始

● 相双地域などからの避難者向けに仮設住宅用地を提供

5月 ● 市内に設置された仮設住宅に入居開始

● 震災に関する総合的な相談窓口開設

原発事故による放射能の流出。不安と風評との闘いの始まり。

4月 ● 市独自に環境放射線量測定を開始

● 南相馬市と「避難者の支援に関する協定書」締結以後、同様の協定を飯館村・浪江町とも締結

5月 ● 市内に南相馬市(4月)・飯館村(6月)・浪江町(8月)の出張所が開設

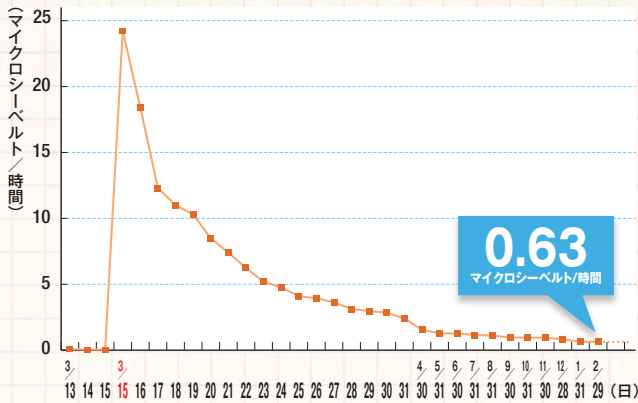
● 全ての小・中学校、幼稚園、保育所で除染作業を開始

7・8月

● 渡利・大波地区で検証的除染を実施

福島市内の空間放射線量 (環境放射能測定値の推移)

■測定場所：県北保健福祉事務所(御山町)
 ■測定時刻：午後2時(3/15日は午後2時と午後6時40分)



原発事故

さらに、福島第一原子力発電所の事故が
 福島県を襲い、不安の連鎖は
 福島市内にも及んだ



市内15カ所に建設された仮設住宅



原発から約60km離れた福島市に、相双地域などから、住み慣れた故郷を離れ多くの方が避難。市ではさまざまな支援に当たりました。



国の対応が混乱を極める中、子どもたちをはじめ市民の安全を確保するため、校庭や園庭の表土を剥ぎ取り地中に埋設、公園の除染も開始しました。

- 7月 ● 「東北大学福島原発事故対策本部福島市分室」開設
- 公園の除染を開始
- 9月 ● 中学生以下の子どもと妊娠中の方に、個人線量計(ガラスバッジ)を配布
- 市内全域を除染の対象とした「市ふるさと除染計画」策定
- 市医師会と連携し「放射線と子どもの健康」講演会を開催
- 10月 ● 大波地区で、全国初となる地域単位の本格除染開始
- 「希望ある復興」を理念とする、「市復興計画基本方針」(原案)作成
- 11月 ● 放射性物質測定の拠点「放射線モニターングセンター」開所
- 市内産の米から暫定規制値を超えた放射性セシウムが検出、出荷制限(流通せず)。後に市内全戸検査実施
- 12月 ● 「あったか・湯ったりリフレッシュ事業」実施(未就学児がいる世帯を対象に市内温泉宿泊費の一部を助成)
- 平成24年
- 1月 ● 「放射性物質汚染対処特措法」施行
- 2月 ● 渡利地区の本格除染開始
- 市内全域の果樹園除染開始
- 災害時要援護者のための福祉避難所を指定
- 市独自に移動式ホールボディカウンターを導入。学校を巡回し検査開始
- 3月 ● 市内21カ所の施設で食品の放射能測定を開始
- 「市ふるさと除染計画」改訂

除染

安全で安心して暮らせる
環境実現のため…



2月、渡利地区の本格除染がスタート。



昨年7月に渡利地区の住民の皆さんと共に行った、除染作業と検証実験を踏まえ、9月に「市ふるさと除染計画」を策定。



大波地区では全国初となる、生活空間全体の本格的な除染を10月から開始。除染ボランティアなど、全国から多くの協力をいただきました。

昨シーズン暫定規制値を下回り、安全が確認された果物。しかし、消費者には徹底して安心なものを届けたいと、冬の間果樹園(樹体)の除染を実施。一本一本、樹皮を丁寧に高圧洗浄機で洗い流し、さらに樹種によっては、粗皮を削り取ります。その効果は、樹体に付着した放射性物質を、高いもので80~90%低減します。



長年作り続けてきた田畑に、さらなる安全・安心の確保のため、土壌改良資材を用いた除染を実施。



農の安全

福島市産農産物の信頼を取り戻し、ふるさとの田畑を守るために、除染は、農地でも進められています。



宍戸 文男 先生

市放射能対策アドバイザー
福島県立医科大学
放射線医学講座教授

福島市では36,767人が3カ月間、個人線量計の測定を行いました。

一人一人の行動の違いにより外部被ばく線量は異なるため、実際にどの程度被ばくしているかを把握することで、生活上の改善すべきことも判断できます。測定の結果、平均値は3カ月で0.26ミリシーベルト(自然放射線含まず)。これを4倍すると、これから先1年の概算値を得ることができます。ICRP*が「復旧期」の上限値とした年間20ミリシーベルトを全員が大きく下回り、医師などで構成する市健康管理検討委員会では、今回の結果から放射線によるがんの増加などの可能性は少ないと判断しました。

また、ホールボディカウンターによる内部被ばく検査の結果では、預託実効線量が1ミリシーベルトを超える方はいませんでした。同委員会としては、「健康に影響を与えるような数値ではない」との見解を出しました。

*ICRP …… 国際放射線防護委員会



中学生以下の子どもと妊娠中の方を対象に、個人線量計(ガラスバッジ)で外部被ばく積算線量を測定。



移動式ホールボディカウンターを市独自で2月に導入。県や医療機関などと連携しながら、中学生以下の子どもと妊娠中の方を最優先に、内部被ばくの検査を進めています。

預託実効線量とは

体内の放射性物質の種類と量を測定し、その摂取時点から一生*の間の内部被ばく線量を推算したもの。放射性物質の半減期や体外に排泄される速さを考慮して計算します。

*「一生」……【子ども▶70歳まで、大人▶50年間】

健康管理

放射能による被ばくへの不安に応えるために……



放射性物質を詳細に測定するゲルマニウム半導体検出器



市内全ての市立学校、保育所の給食も測定し、安全・安心を確保。さらに、市民がより身近な場所で測定ができるよう、測定器を各支所・学習センターなどに配置。検査体制の充実・強化を図ります。

個人持ち込みによる農作物や食品を検査します。測定結果を本人に伝えるとともに、集計したデータを速やかにホームページなどで公表。測定データを広く活用いただいています。



食の安全

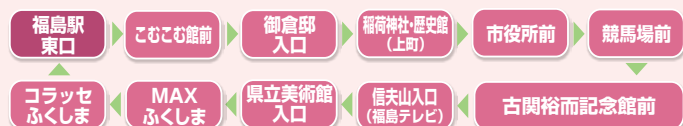
食品等簡易放射能測定器を131台確保、5月末までに配置。市内各地区の支所などで、市民が持ち込む食品の放射能を測定。



まちなか周遊 「ももりん号」運行

フルラッピングされたバスが、市内を巡ります。

- **運行期間**
4月7日(土)～22日(日) 毎日運行
午前9時40分～午後4時20分(約30分に1本の間隔で運行)
- **発着**
福島駅東口バスプール 6番乗り場
- **運賃**(1日フリー切符)
大人300円、小児150円
- **問い合わせ** 商業労政課 ☎024-525-3720
- **運行コース**



「ももりん号」で市内の名所巡りを楽しもう!

- **こむこむ** (子どもの夢を育む施設)
開館時間/9:30～19:00(火曜日休※祝日の場合は翌日)
入館料/無料
問い合わせ/☎024-524-3131
□ **春休み企画展**
「～ドキドキとわくわくのページを開こう!～とびだす絵本ワールド」(無料)
4月8日(日)まで 9:30～17:30
※ももりん号ご利用の方は、プラネタリウム団体料金で観覧できます。
- **御倉邸** (旧日本銀行福島支店長役宅)
開館時間/10:00～18:00(火曜日休※4月を除く)
入館料/無料
問い合わせ/☎024-522-2390
□ **ふくしまの民話ライブ** (無料)
4月7日(土)～22日(日) 10:00～16:00
□ **市民定例「茶会」** (無料)
4月15日(日) 10:00～15:00
□ **御倉邸のさくら祭り**
4月15日(日) 11:00～16:00
- **ふれあい歴史館**
開館時間/9:30～16:30(火曜日休※祝日の場合は翌日)
入館料/無料
問い合わせ/☎024-521-5318
□ **特別展「芭蕉と福島 ～昔の旅と芭蕉が歩いた福島のみち～」** (無料)
4月1日(日)～6月25日(月)

- **JRA福島競馬場**
入場料/100円(競馬開催期間のみ)
問い合わせ/☎024-534-2121
□ **春の福島競馬開催**
4月7日(土)・8日(日)・14日(土)・15日(日)・21日(土)・22日(日)・28日(土)・29日(日)
- **古関裕而記念館**
開館時間/9:00～16:30 最終入館16:00
入館料/無料
問い合わせ/☎024-531-3012
□ **桜ライブコンサート**
● **男声合唱の調べ** (有料)
4月8日(日) 14:00～15:30
● **オカリナの調べと、みんなで歌おう** (無料)
4月14日(土) 13:30～15:00
● **ハモンドオルガンとみんなで歌おう** (無料)
4月22日(日) 14:00～15:30
□ **古関メロディーをみんなで歌いましょう**
毎週日曜日 11:30～13:00
※都合により変更する場合があります。
- **音楽堂**
開館時間/9:00～21:00(12月29日～1月3日休)
入館料/無料
問い合わせ/☎024-531-6221
□ **バックヤードツアー(約15分)**
ホールやパイプオルガンをご案内します。
4月8日(日)～20日(金) ※14・15日は除く

- スタート時間/11:00 12:00 14:00 15:00 16:00
※都合により変更する場合があります。
- **県立美術館** (4月6日(金)まで臨時休館)
開館時間/9:30～17:00 最終入館16:30
(月曜日休※祝日の場合は翌日)
問い合わせ/☎024-531-5511
□ **企画展 五味太郎作品展「絵本の時間」**
4月14日(土)～5月20日(日)
観覧料/一般・大学生700円(560円)
高校生500円(400円)
小・中学生300円(240円)
□ **常設展 コレクションI**
4月7日(土)～7月1日(日)
観覧料/一般・大学生260円(210円)
高校生以下無料
※()は20人以上の団体料金です
- **A・O・Z** (アオウゼ)
開館時間/9:00～21:00
入館料/無料
問い合わせ/☎024-533-2344
□ **花見山の花々写真展** (無料)
4月30日(祝)まで
□ **樹木医に聞く桜の木の話** (無料)
4月10日(火) 14:00～



CONTENTS

2 福島の元氣

4 またこらんしょ

「花もみもある」ふくしま市へ
～福島市観光コンシェルジュのお薦めスポット～

8 福島の農業を支える人々

12 福島市復興への道筋

16 インフォメーション

- まちなか周遊「ももりん号」運行
- 「ももりん号」で市内の名所巡りを楽しもう!

表紙紹介

「荒川桜づつみ 河川公園と子どもたち」

撮影:宗像 武さん
(平成23年度市民カメラマン)
撮影地:荒川桜づつみ河川公園(八木田)
荒川の堤防沿いには、約220本の桜並木が勢ぞろい。子どもたちの元気に走り回る姿と満開の桜が、春を一層輝かせます。



市民フォト・ふくしま夢通信

平成24年4月1日発行 No.10 2012年春号

ホームページもご覧ください ▶

福島市

検索



編集
発行

福島市役所 広報広聴課

〒960-8601 福島市五老内町3-1
☎024-525-3710 FAX.024-536-9828
E-mail: kouhou@mail.city.fukushima.fukushima.jp